

やけどをしたとき

！ すぐに受診した方がよいとき

- 全身・広範囲（大人の手のひらより広い範囲）に及ぶ場合
- 皮膚が黒く焦げていたり、白くなっている場合

しばらく様子を見ても大丈夫なとき

観察ポイント

- やけどの範囲が狭くて、皮膚の表面が赤くなっているだけの場合
- やけどの範囲が狭くて、水ぶくれができていない場合



手当の仕方

……→ 通常の診療時間内に受診しましょう

- 痛みが引くまで（少なくとも30分以上）やけどの箇所を冷水に浸けましょう。ただし、患部に直接勢いよく水をかけると、水ぶくれを破ってしまうことがありますので、洗面器に受けるなど、水の勢いを弱めて冷やしましょう。また、直接冷やすことができない場合は、冷やしたタオルなどを患部に当てましょう。
- 水ぶくれができたなら、破れないようにガーゼなどを当てて保護しましょう。（水ぶくれの中は無菌状態ですが、水ぶくれを破るとそこから菌が入って、化膿するおそれがありますので、感染防止のため水ぶくれはそのままにしておきましょう。）



乳幼児の場合は、スイッチを入れたままのホットカーベットやカイロなどでも低温やけどになることがあります。また、炊飯器やポットなどの蒸気も、やけどの原因となりますので、注意しましょう。

